



第1回 にぎわい部会（令和7年6月20日開催）

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	鈴木委員	【地域福祉推進事業の個別避難計画について】 個別避難計画は作成していくのも大事だと思うが、一旦作ったものをローリングしていくというか、モニタリングしていく必要が出てくると思う。状況がどんどん変わっていくと思うので、その辺り今の時点では具体的に何か検討があるのか。 また、これから大きな災害が起きる可能性がある中で、時期的にも台風の心配もあるので、対象にされる人数もどんどん増えていく状況だと思うが、今の時点で個別避難計画に関しては誰が中心になってどんな形で実施されているのか教えてほしい。ご本人のご担当のケアマネジャーの方と関わっているということか。	個別避難計画ですが、対象になるのが要介護3以上の介護が必要な方等を対象に名簿を作成し、西成区の社協の見守り相談室とも連携して、個別の避難の対象になる方の個人情報の取扱等の確認を行いながら対象名簿を固めている状況です。個別避難計画につきましてはその中から要介護5の方で単身で居宅生活をしている方を優先度の高い方ということで、作成の対象として今取り組んでいるところですが、今お話しいただいたように対象者の数につきましては変動がございますので、今300件を目標に取り組んでいます。これは4年度に作成したときの数字ですので、現状変わってきている数字に対しても、今後対応していくということを引き続き行っていくということになっております。 作成しました個別避難計画についてのモニタリングというところにつきましても、当然対象になる方についても介護の状態、ご健康の状態も変わってくることがございますので、支援いただいている方々との日々の調整、連絡体制を取りながら、当然状況に応じた対応を考えていく必要がございますのでそういった対応についても引き続き行っていきたいと思っております。ケアマネジャーの方を中心に関わって頂くことも多くあります。	個別避難計画につきましては、西成区では、避難行動要支援者のうち要介護5で単身の居宅生活者の方について令和8年度末までに300件作成することを目標に令和4年度より取り組んでおります。また、避難行動要支援者の名簿につきましては、毎年度更新しており、その際に追加となった方についても作成を進めております。 これまで作成しました個別避難計画につきましては、主にケアマネジャーが気にかけてくれる人（避難支援等実施者）になっていただいていることから、要支援者の状況変化などについてご連絡をいただいた場合は、随時、計画に反映させているところです。 引き続き、目標達成に向けて、介護事業者等とも連携しながら着実に進めてまいります。	市民協働課 福祉担当
2	小林委員	【令和6年度 西成区運営方針自己評価について】 区民へのアンケートで「あなたが持っている西成区のイメージはどれに近いですか」に肯定的な回答が前年度56%で令和6年度は47%。すごく下がっているのに驚いてこの1年でそんなに悪いことが起きたのかという疑問があるが、理由はあるのか。 区民アンケートの回答は高齢の方が多く、入手している情報のほとんどが広報紙である。回答者の内、若者の層が比較的少ないが、若い人のアンケートはなかなか取りにくいのか。そもそもあまり協力的ではないのかもしれないが、これでは偏った結果で評価されるのも少し違うと思う。	区民アンケートのご質問ですが、また後ほどアウトカム指標のところ、若干触れたいと思っているところですが、現在区民アンケートにつきましては、住民基本台帳に基づきまして区民1500人を無作為抽出し実施しております。令和6年度は1500人に出しまして回答率が36%、550人弱の方から回答をいただいております。無作為抽出でございますのでなかなか難しい所もありますが、傾向としましては先ほど議長が仰いました様に、回答される方の分布図と、年齢別人口比がなかなか合っていない、議長がおっしゃる様に高齢者の方が比率的に高くなっているというような傾向がございます。若年層という部分もありますが、18歳以上の方を無作為抽出で実施しておりますので、実際のところ難しい部分がまだあるかと考えております。	当日の回答のとおり なお、運営方針自己評価について、偏った結果で評価されるというご意見につきましては、「区民へのアンケート結果」で評価しておりますので、区民アンケートの他、プレーパーク来場者、地域福祉フォーラム来場者及び乳幼児健診来場者へのアンケート結果を加えて、数値を算出しております。	総務課
3	宮尾委員	【公園・まちの美化について】 子育て出来ないのは、ごみ問題と落書きも関係があると思う。市の公園は大阪市がやってるので差別はないはずだが、なんとなくごみが多い落書きが多い、タバコは残っている。西成区は単身者、お年寄りが多いということは子育て世代がいらないから魅力のあるまちづくりは難しいと思うし、考えたら年を取ると物も買えなくなるし、それに比べて子育て世代は需要があるということは商店街の活性化などもお年寄りよりも子育て世代の方が影響があると思われるから、子供出来たら出ていくという流れが良くないと感じている。その中で何故出て行くのかという要因の一つとして公園等の清潔感もあるのではないかなと思う。子供が遊んでいない点についても安全面での不安があるのかなと思っている。以前に公衆トイレの話も出して下さったので、個人的に近所の公園のトイレを確認して綺麗にしているのわかるが、その辺りの住民の意識の違いが今のパーセントに出てきているのかなと思っている。社会が変化していて、新今宮の所も綺麗になっているし、あいりん地区の所もやろうとしているところで、ありがたいが、地元の普通の公園などにももう少し注力して欲しい。	公園の清掃については、公園愛護会や各地域のボランティアに行ってもらっています。また、建設局が定期的に清掃を行っておりますが、5月には西成区役所の事業の一つとして、西成大そうじを実施しました。そちらは各地域の方で自主的に掃除をやっていたということで、我々もいろいろと回らせていただきましたが、公園の掃除はその日だけではなく日常的に行っていただいております。すごく綺麗な公園もありますし、一方でそうではない公園ではポイ捨てなどがあり、ごみが多くなっているのかなと思います。しかしながら、年々昔に比べて改善されてきていると感じており、引き続き、街を綺麗で住みやすい安全な街にしていきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。 西成区は子どもの数が減ってきており校舎にも余裕がある状況です。西成区で子供を産んで、育ててもらおうというところは、運営方針のやっぱりすべてはこどもたちのためにというのはそういう願いもあります。そのためには、西成で産まれた方育った方が、やっぱりここは良いよね、ここに住み続けて子どもを産んで育てようかというところを、まず共有していく必要があるかなと思います。昔のマイナスのイメージが先行しているので、イメージを払拭していきたいです。公園など段々とまちも綺麗になってきているので、そこを皆さんに共有してもっと一気にまちを綺麗で住みやすい安全なまちにしていきたいと思っています。また、皆様の色んなご意見、辛口なご意見も大歓迎でございますので、いただけたらと思っています。	当日の回答のとおり	市民協働課

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
4	庄野委員	【まちの緑化について】 西成区はどうしても緑が少ないイメージがある。それが住みたいまちにならない一つの原因であると思うが、そういった中で建設局が2009年に緑のウォーキングマップという物を作成し、各区24区とも作っている。西成区に関しても約8.8km2時間少しで周るようなマップになっている。その中で実際マップはあるが、マップの配架とか、案内の掲示物が無いとか、建設局が所管するところで西成区の管理ではないが、そういったところをタイアップして、緑のウォーキングが出来るところを再度確認していただき、作っていただけたらと思う。特にその散歩道の中で天神ノ森天満宮などとても良い施設で、創建約600年になるので、大阪市の指定樹木大きなクスノキ樹齢年数が400年の樹木が約13本、是非ともこういったところを宣伝していただき、市外からのお客様や市民に楽しんでいただき、憩いの場としていただきたいと思う。そういった事をまた建設局と是非タイアップしてほしい。	—	現在、建設局では「みどりのウォーキングコースマップ」の配架はしておらず、大阪市のホームページからダウンロードしていただく形となっており、マップの配架方法については、今後検討していく予定です。 西成区においては、ご意見の場所も含み、区HPにおいて、名所・旧跡・おすすめスポットを掲載し区内のみどころを案内しています。また、区内を周遊し楽しんでいただくことを目的に観光マップ(日・英・中)を作成しています。引き続き、ご意見を踏まえ今後も区の魅力発信に努めてまいりたいと考えています。	市民協働課 総合企画課 総務課
5	上田委員	【文化観光振興事業について】 私も宿泊業を手掛けているが、本当に山王や太子、萩之茶屋エリア外国人の方も含めたくさんの旅行者の方がいらっしゃる。この所は、ホテルの方で1か月滞在する、長期のプランを辞めるという、ホテルが続出している。それは日割りで来て泊まっていた方が儲かるからという、話で聞いている。ということは、観光客が西成にたくさんいらっしゃるが、数日泊まって帰って行かれるという形の、観光客がどんどん増えていく、という事はオーバーツーリズムやただ泊まるだけのまちになってしまう。ここで考えている文化観光、西成区に泊まって体験出来た事とか、住民との交流等を通して、また戻って来たいまちになる事が重要な事かなと思うので、そういった交流や体験を生み出すような事を行うべきだと思う。また今現在在住されている外国人の方も、ある時期だけ住むのではなく、本当に西成区に住んでもらうためにはこういった意見を伝える場にも外国人の方も参画してもらおうようにして、その方たちの声も聞きながら、多様な声を聞きながらどうすれば西成のまち「ええ、まちやな」って言えるのかを考えていきたいなと思った。	—	西成区の文化観光振興において、どのような資源を打ち出していくのかということについては、地域の方々のご意見も踏まえて、区役所としてできることから取組を進めてまいりたいと考えております。 地域外から来られる方々(外国人の方を含む)を対象とする交流・体験という点につきましては、現在、新今宮スタディツアーや新今宮ワンダーランドの実施をはじめ、各種区内イベントへの後援等の形で取り組んでいるところではありますが、引き続きより良いものとなるよう取組を進めてまいりたいと考えております。(総合企画課) 外国人住民の多様な意見を聴取するというご意見については、今後とも、外国人住民を含めた「外国につながる市民」のご意見やニーズをよりの確にとらえた多文化共生施策を、関係局や他の区役所とも連携しながら進めるよう努めてまいります。(総務課)	総合企画課 総務課
6	宮尾委員	【多文化共生について】 海外の人が多い、コンビニの店員も海外の方が多く中で、そういった方達にも居ていただく方がいいのではないと思う。アンケートは70代とかその辺りの年代が多い事を踏まえて思うのは、アンケートについて言葉、海外の方でも分かりやすい言葉を使う等、行政としても留まっていたくようにつかんでほしい。そういった方たちが地元に着根付いたら学校もなくならずにすむし、多文化共生を普通の公立小学校で目指せると思う。またそれも魅力となり日本人の方も寄ってくるかもしれないから、待っていても仕方ない。意識を転換して外国人ばかり嫌やとか高年齢の方はよく思っていると思うが、もう仕方ない子育て世代もないし若い世代は子供も居ないので、外国人の方々が西成区に定着出来るよう行政も工夫していく必要があると思う。引き続き在住してもらうための工夫が必要ではないのかと思う。	—	令和7年3月末の西成区の外国人人口は15,446人で、これは平成27年3月末の6,692人と比べると、約2.3倍になっています。 「外国人の方々が西成区に定住できるよう行政も工夫していく必要があると思う。引き続き在住してもらうための工夫が必要ではないかと思う。」というご意見については、今後とも、外国人住民を含めた「外国につながる市民」のご意見やニーズをよりの確にとらえた多文化共生施策を、関係局や他の区役所とも連携しながら進めるよう努めてまいります。	総務課

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
7	高橋委員	【まちの活性化について】 我々が団結して、例えば今一番良いと思う場所で、何か1つコンセンサスを西成で作る。例えば天下茶屋など広大な敷地を活用してまちの活性化をめざして行かないと何も進まないのではないか。東京は再開発をすごくしている。東京は世界の10都市の中に入っているから、大阪と比べると難しいけど、その中で西成区というものをもっと発揮する必要があると思う。もっと我々西成区民のために区民と人が西成区に入って来られるよう、政策を作るべきではないかと思う。	—	西成区では、「まちの活性化、イメージアップ」を図り、「若者や子育て世帯の流入促進」を終局的な目標として、現在、第三期西成特区構想を掲げ、特に「子育て・教育」、「まちづくり」に重点を置き、取組・検討を進めているところです。 「まちづくり」においては、現在、「天下茶屋駅周辺のまちづくり」として、駅前市有地を中心にこのエリアの魅力向上を目指し、西成区の新たなまちづくりの拠点となるよう検討を進めています。 検討にあたっては、この間、このエリアのイメージの刷新と魅力向上を目指し、民間事業者へのヒアリング等も実施しながら、令和6年8月～9月にパブリックコメントを行い、同年10月に「天下茶屋駅前まちづくり方針」を取りまとめて公表したところです。 同方針は『西成の新たなまちのイメージを「天下茶屋が先取り」⇒天下茶屋から発信し、周辺への効果を波及させ、若者、子育て世帯の増加をめざす』とし、①子育て・教育②文化(音楽・スポーツなど)③安全・安心 の3つ取組テーマとしており、西成の新たなまちのイメージの実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。	総合企画課 総務課
8	上田委員	【新たなアウトカム指標(案)について】 重々これを指標にする事が、指標にならないと思っての指標だと思うが、西成区観光振興事業と検索をかけ、その中でこのページを見て行くっていう風にはなかなかならないという気がする、実際これを指標としても欲しいと思っている数字は出てこないと思う。行政が数字というものにどうしてもそれしか確かなものがない風に思われがちなのもよく分かるが、近年数字だけではなくもう少し質的であったりとか数字を読み解く意味を付随する形で指標を考えていけないのかと思う。だからと言って何かいい案があるわけではないが、ちょっともったいなさすぎるように感じた。 とはいえ、経年で取っていくっていうのは必要なものだとは思ふ。毎年毎年変えていたら一体何なのかということになる。そういう意味では今これを考えているということであれば、この形を何年間か続けていただけたら良いと思うが、もしその補助指標とかその数字をどのように読み解いていくかということも積み重ねておけばまた変わっていく際に役に立って行くと思う。何が補助指標になるかという、コンテンツの数が増えたとか、そういう他の部分の数字も追いかけてみてはどうかと思う。	ご指摘の通り、指標については十分とは言い難いものかもしれませんが、一旦、お示した指標とさせていただき、新たなアウトカム指標については、取組を進める中で、より良い指標がないか、引き続き、検討をさせていただきたいと考えております。 従来のコンテンツをそのままでスパイラルアップさせようというような、そういうことでなくて、これをどうしたら閲覧数上げていくかというのがミソになります。中身を相当変えていかないと上がらないだろうと考えていますが、今後、よりふさわしいアウトカム指標が出てくれば、もちろんそちらに変えることはやぶさかではないので、今回区民アンケートについて、基本的な問題を指摘されていますので、今もがいているということです。より実態に即した、我々の施策がほんとにどういう風に反映されているのかというのが、適切に反映される指標について、これから皆様方とも意見交換しながら、よりバージョンアップを図っていけたらなという風に思っています。	当日の回答のとおり なお、指標の対象としている西成区ホームページ「観光・歴史」には、各種イベントの告知・開催報告のページや西成情報アーカイブ事業など多くのページが含まれており、それぞれにおいて効果的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。	総合企画課
9	上田委員	【地域住民としての外国人という表記について】 アンケートの地域福祉のところで、「地域住民としての外国人について」という表記があって、この書き方をした時に、「地域住民としての日本人について」とここに書かれていたら少し嫌だという気持ちがある。「地域住民としての外国人」この言葉が少し嫌だと思う。地域福祉の観点において外国人についてはどういう話なのかもう少しイメージを教えてください。	フォーラムの内容ということではいいですと西成区在住の外国人と日本語での交流ですとか、外国人に伝わるやさしい日本語というのはどういうものか、というような内容で講演をいただいた。フォーラムの中では日本にお住まいいただいている外国人の方も登壇いただいてパネルディスカッションを行っていただいて、普段どういったことを感じながら生活されているのか、ということも踏まえていろいろディスカッションしていただいた内容を、ご参加いただいた地域の皆さんと一緒に考えていただいたという多文化共生の内容になってございます。今お話しいただいている表現のところについては、今、西成区在住外国人という表現等も使っているところはあるんですけども、どういったかたちで表現を整理できるかということ踏まえてまた変えられるところがあれば検討したいと考えております。	当日の回答のとおり	福祉担当